

都幾川大野ダム建設のゆくえと嵐山町水道

都幾川に建設計画のある大野ダムは、公共事業の見なおしで計画は止まっていますが、都幾川村では、不安であるが、周辺整備（上下水道や道路）のために、ダムを推進したいと要望し、県の公共事業評価審議会でダム継続事業になってしまいました。

都幾川にダムが建設されてしまうと、嵐山町や東松山市の

水道水源井戸が使えなくなる危険性は大きいのです。

ダムには水だけでなく砂もたまります。ダムができてしまうと砂がダムにとどまり、

砂が川を流れなくなって都幾川の河床が低くなります。今までの水源井戸では、深さが足りなくなり、嵐山町の水道水源が町の水道として使えなくなります。

その結果、利根川の水である県水を嵐山町は買うことになってしまうのです。

都幾川から取水する嵐山町の水道を守るために、水源保全策として、都幾川村大野地区の整備に若干でも嵐山町が協力金として負担して、水道水源を守る動きを作る必要があります。嵐山町の水道は町民の生命線です。

源流の自然や人々のくらしを犠牲にして作る価値があるのでしょうか？

<大野ダム建設予定地略図>



東松山市・都幾川村と協議し、都幾川の水源保全策を進めるべきです。

横浜市では、水源である上流の自治体山梨県道志村と協議し、水源保全の

ための予算をとり、上流の森林保全など行っています。

介護保険は、家族の介護から、社会的な介護へ進める方法ですが、介護保険で行える範囲は全体の60%程度で、残り40%は家族が担わなくてはならないのです。その部分を、住んでいる地域と家族がいっしょになって行えるようにしてほしいと思います。

地区ごとのグループホームを！

嵐山町には、現在鎌形のB.G.の近くに老人福祉センターを建設する計画があります。町に1ヶ所の老人福祉センターではなく、地区毎に、散歩できる範囲に1ヶ所、ミニデイケアセンターをつくって、障害のあるお年寄りや健康なお年寄りが、お互いにお茶を飲んだり、お話ししたり、食事ができたりする場所のほうが、生活にあっているように思います。小さい子供達も出入りできるゆつくりと時間の流れる場所が必要なのでしょう。



気になりませんか。地域振興券の経費

嵐山町地域振興券 4648 人分（見込）9296 万円発行に、国は9947 万円を補助します。その内訳は、地域振興券に9296 万円、印刷費に139、7 万円、取次手数料、92、9 万円、事務費補助に418、3 万円です。

ところが、嵐山町の支出は、1億99万3千円です。職員の時給外手当、警備費用、保険料、地域振興券交付金など、152万3千円が赤字になります。

借金づけの日本国予算、キャッシングでお金を借りて一時的に潤う…本当に地域振興になるのか。教育・福祉の充実で景気回復をねらったほうがいい。嵐山町は、国からの地域振興券の予算措置だけではとても足りず、町予算150万円の繰り入れです。

役場庁舎への新たな進入路、本当に必要でしょうか

7年前の町長選は、役場建設、役場の位置が争点になりました。そのため、嵐山町駅西側の人達の利便性を考え、志賀堂沼から、今の庁舎への進入路を建設することになりました。その第1期分土地購入費として1億6000万円を支出しました。完成までには10数億円は必要です。本当に必要な道路建設なのか、今疑問です。

財政が苦しい現状で、町の建設事業計画は、再評価する時期にきています。